

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名(英)	統計学 (Statistics)	必修選択	必修	年次	3年次	担当教員	伊藤 忠
学科	理学療法科	授業形態	講義	総時間	15	開講区分	前期
コース	昼間部(Ⅰ部)			(単位)	(1)	曜日・時限	金曜日・1.2時限目

【授業の学習内容】

授業内容：本講義の学習内容は、医学研究で用える多い統計学的手法やコンセプトが中心となります。現在、数値計算は統計ソフトで簡単にできるようになり、統計手法は特別な計算式を覚えていなくても行えるようになりました。そのため、統計手法の難易度の判断基準も変わってきています。これらのことを踏まえて、論文を読んでいくために必要な統計学の初歩と定義、データの型と記述統計、統計学的検定法の概要、分散分析、相関と回帰、その他の手法をグループワークを必要ならながら、用語の定義やコンセプトを習得していただきます。

実務者経歴：2012年4月～2018年3月まで国立長寿医療研究センターに研究補助者として所属し、2015年5月より名古屋市立大学の未来研究員として所属、2016年3月より、愛知県三河湾い島医療療育センターで専任研究員として所属、2019年4月より名古屋大学の客員研究員として所属している。主業務は、臨床検査、臨床研究、大規模調査で得られた患者や対象者のデータ解析をし、統計分析をしたデータの結果をまとめる業務。（科目との関連性を示す）

【到達目標】

最低限必要な統計学的手法の用語や意味を習得し、研究論文や学会抄録をスムーズに読み進めることができるようになっていただくことがこの講義の目標です。また、統計解析ソフトを使用して、実際のデータを分析する実習だけでなく、模擬研究課題を実施し、グループワークから臨床研究に必要な統計学的手法の実習を行い、選択した統計学手法について説明ができるようになっていただくことも本講義の大きな目標といたします。

〈具体的な目標〉

目標①基本的な統計学の用語を説明することができる。

目標②主要医学論文を読んで、使用された統計手法を説明することができる。

目標③グループワークから理学療法研究に適切な統計手法を選択し、説明することができる。

授業計画・内容		
1回目	医療統計学とは何かについて説明ができる	
2回目	データの型と記述統計、差の検定のための統計、信頼度検定のための統計について説明ができる	
3回目	相関と回帰、リスク比較のための統計法について説明ができる	
4回目	生存分析のための統計、臨床研究およびスクリーニングのための統計について説明ができる	
5回目	実際のデータから統計分析を行い、正しい統計手法について説明し活用することができる	
6回目	個々のデータを使用してグループワークを行い、統計分析を行うことができる	
7回目	グループワークの課題発表	
8回目	試験解説	
9回目		
10回目		
11回目		
12回目		
13回目		
14回目		
15回目		
16回目	試験	
準備学習 時間外学習	この講義を受けるには、臨床研究に必要な統計学の知識が必要となります。講義を受けた後は、講義で学んだ統計手法が用いられている理学療法分野の論文を熟読し、講義で得られた知識を習得できているか復習をすることが必要です。	
評価方法	定期試験（60％） 課題成果（40％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
受講生への メッセージ	グループワークで統計手法の選択が習得できているか評価を行う。定期テストでは、統計用語や手法が習得できているか確認し、総合得点で評価を行う。 臨床実習で文献を読む機会が必ずあると思います。文献で用いられている統計手法をスムーズに習得をして、論文の内容を深められるようになっていただければと思います。また、実習中の文献抄読にも役立てていただければと思っています。苦手意識を持たず、積極的に参加してください。	
【使用教科書・教材・参考書】 使用教科書：すぐできる!!リハビリテーション統計[解析ソフト付](改訂第2版)：データのみかたから検定・多変量解析まで 参考図書：親切な医療統計学 第2版 Michael Harris, Gordon Taylor：たったこれだけ！統計学。KINPODO 臨床統計はじめての一步。羊土社		

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年 シラバス

科目名 (英)	理学療法研究法 (Methodology of Physical Therapy)	必修選択	必須	年次	3年次	担当教員	安藤 正和
学科	理学療法科	授業形態	講義	総時間	15	開講区分	前期
コース	昼間部 (Ⅰ部)			(単位)	1	曜日・時限	水曜 1・2 限
【授業の学習内容】 本講義では、研究の手順を通して臨床での効果判定を高めることを目的とする。また、臨床推論を研究的な視点を持つことで客観的評価に繋がられることを学習する。							
【到達目標】 方法と対象について理解し、結果から考察できる学力を身につける。機材の操作やデータの読み取り、画像の見方についても学習し理解する。							

授業計画・内容			
1回目	総論 必要な解剖学情報		
2回目	アンケート 形態測定		
3回目	立位での足圧中心測定 起立動作撮影 ストレッチ介入前後でのエコー観察		
4回目	トレッドミル介入前後でのエコー観察 ROM/MMT計測		
5回目	ストレッチ介入前後でのエコー観察		
6回目	トレッドミル介入前後でのエコー観察 ROM/MMT計測		
7回目	起立動作の動作分析 術創部のエコー観察		
8回目	自身のデータを読み取り、レポート作成（試験）		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
16回目	試験		
準備学習 時間外学習			
評価方法		評価方法はG P A制度となります 1 0 0 ～ 9 0 点 S 8 9 ～ 8 0 点 A 7 9 ～ 7 0 点 B 6 9 ～ 6 0 点 C 5 9 点以下 F 不合格	レポート内容から評定
受講生への メッセージ	自身の事を深く理解を深めることで臨床での患者の評価に繋がる事を理解して欲しいです。		
【使用教科書・教材・参考書】			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名(英)	理学療法管理学 (Management in Physiotherapy Practice)	必修選択	必修	年次	3年次	担当教員	熊谷 泰臣
学科	理学療法科	授業形態	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間部（Ⅰ部）			(単位)	2	曜日・時限	木曜日・1,2限
【授業の学習内容】 授業内容：理学療法管理学に関する総論から、これまでの流れ、これから必要とされることを、講義を中心に、臨床現場の状況を加えて説明する 実務経験 1989年より尾張温泉かえ病院で、開設1年目の病院で勤務し、1993年より豊田厚生病院で急性期での勤務を経て、1995年より現在の医療法人財団善常会に就職し、リハビリテーションについては開設に近い状態で施設基準の取得、病院の立て替え、回復期リハビリ棟の開設等の業務と法人内のリハビリテーション部の人的な拡大とともに人材の育成を含む管理業務を主として行ってきた。他の養成校で1998年から地域理学療法学を担当し介護保険を中心とする社会保障制度から、地域理学療法の実践までの講義等も実施してきた。							
【到達目標】 理学療法士として、その技術力だけでなく、個人のみならず組織としての管理が問われ、適切な理学療法を提供するにあたり、効率よく安全に提供するための管理『マネジメント』の視点を養うことを目的とする。							

授業計画・内容			
1回目	病院管理学、医療管理学との関連、理学療法管理学の必要とされる背景、 理学療法管理学の構成内容（課題を含む）について		
2回目	病院の設立主体、形態、機能分類、病院の組織・部門とその機能について		
3回目	リハビリテーションに関わる専門職、事務局の役割と特徴、病院における委員会とチームについて		
4回目	社会保障の構成要素と機能、社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生、税金と保険料負担について		
5回目	医療保険制その歴史、国民医療費、医療保険制度の体型と概要、診療報酬の改定等について		
6回目	介護保険制度の特徴と対象、介護保険の仕組み、要介護認定、介護保険サービスとその実態について		
7回目	臨床におけるリハビリテーション料の算定、診療報酬・介護報酬の支払いの仕組み、 人件費とコスト、給与の背景について		
8回目	保健・医療・介護・福祉の意味とその連携、予防医学、障害と福祉について		
9回目	務の流れ、他職種との業務調整、業務・労務管理、人事考課、監査絵の対応、 職場環境のデザイン、機器の点検・管理について		
10回目	情報・記録（診療報酬、電子カルテなど）の分析と管理、コミュニケーション技術について		
11回目	医療・介護におけるコンプライアンス、インシデントとアクシデント、事故の背景、安全への取り組みについて		
12回目	感染と感染症の概要、感染症の予防（標準感染予防策）、感染対策について		
13回目	インフォームド・コンセント、個人情報保護、倫理、職業倫理、研究倫理、ハラスメント、 コンフリクトマネジメント、医療広告ガイドラインについて		
14回目	療参加型臨床実習、臨床実習の管理と評価方法（OSCE）、国家試験、臨床教育の管理、生涯学習について		
15回目	理学療法の政治、政策への関与の背景、職能団体の政治への関与とその実際の状況、医療政策決定の仕組みについて 試験解説		
16回目	試験		
準備学習 時間外学習			
評価方法		評価方法はG P A制度となります 1 0 0 ～ 9 0 点 S 8 9 ～ 8 0 点 A 7 9 ～ 7 0 点 B 6 9 ～ 6 0 点 C 5 9 点以下 F 不合格	定期試験50% レポート50%
受講生への メッセージ	イメージのしにくい科目になりますが、実際の臨床の現場での状況やリハビリテーションを取り巻く社会情勢、理学療法士の職域の変化などを踏まえて、イメージできるように進めたいと思います。		
【使用教科書・教材・参考書】 石川朗 総編集 理学療法テキスト理学療法管理学 中山書店			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	理学療法評価学演習Ⅱ (Measurement and Evaluation in Physical Therapy SeminarⅡ)	必修選択	必須	年次	3年次	担当教員	川出知樹
学科	理学療法科	授業形態	演習	総時間	15	開講区分	前期
コース	昼間部 (Ⅰ部)			(単位)	1	曜日・時限	月曜1限

【授業の学習内容】

理学療法士として、必要な基礎的な運動療法である、関節可動域訓練において、オリエンテーション、環境設定、関節可動域運動を行いやすい状態の準備ができ、関節可動域制限因子に応じた運動方法を選択し、リスク管理を含め関節可動域訓練を実施できる。筋力増強訓練において、代償動作に考慮して行える。部分荷重訓練において、体重計を使用して、適切な荷重の誘導・介助ができる。また、動作訓練として、起き上がり動作、立ち上がり動作において準備ができ、適切な誘導、介助ができる。

*実務者経験：2018年4月～2024年2月まで藤川クリニックにて理学療法士として勤務。通所リハビリや訪問リハビリの立ち上げから実務、整形外科領域での治療に従事する。2015年より大学院研究室にて慢性疼痛についての研究を実施。

【到達目標】

基本的な評価項目における評価方法を理解することができる。評価結果をどのように解釈し、治療に結び付けていくかを理解することができる。

＜具体的な目標＞

目標①基本的なj評価方法を確認し、実践できる。

目標②量的な評価だけでなく質的評価を行うことができる。

目標③評価結果から考えられる障害を挙げ、治療方法を考えることができる。

授業計画・内容		
1回目	関節可動域測定における評価方法を述べることができる。	
2回目	関節可動域測定における評価結果の解釈が理解できる。	
3回目	徒手筋力検査における評価方法を述べることができる。	
4回目	徒手筋力検査における評価結果の解釈が理解できる。	
5回目	評価結果から動作分析を考察することができる	
6回目	評価結果から統合と解釈が理解できる	
7回目	評価結果から問題点の抽出とゴール設定が理解できる	
8回目	評価結果から治療プログラムの立案の設定が理解できる	
9回目		
10回目		
11回目		
12回目		
13回目		
14回目		
15回目		
16回目		
準備学習 時間外学習	(例えば関節可動域制限がある場合には様々な原因が考えられます。その原因によって治療法が異なるため、量的な評価だけでは不十分です。End feelなど質的な評価ができるようにまずは解剖生理運動学を復習しておいてください。	
評価 方法	1. 定期試験 (50%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (50%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
受講生への メッセージ	これまで評価学で学んできた評価方法は数値を測定する、いわゆる量的評価をすることが多かったと思います。しかし臨床における治療では、量的評価に加え数値で表すことができない質的な評価が重要となってきます。治療実習に出る前に診かた考え方をしっかりと身につけてください。	
【使用教科書・教材・参考書】 豊田 輝 編：症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト. 羊土社		

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	OSCE II (objective structured clinical examination II)	必修選択	必須	年次	3年次	担当教員	鈴木 和行
学科	理学療法科	授業形態	演習	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間部 (Ⅰ部)			(単位)	1	曜日・時限	月曜・1, 2限

【授業の学習内容】

理学療法士として、必要な基礎的な運動療法である、関節可動域訓練において、オリエンテーション、環境設定、関節可動域運動を行いやすい状態の準備ができ、関節可動域制限因子に応じた運動方法を選択し、リスク管理を含め関節可動域訓練を実施できる。筋力増強訓練において、代償動作に考慮して行える。部分荷重訓練において、体重計を使用して、適切な荷重の誘導・介助ができる。また、動作訓練として、起き上がり動作、立ち上がり動作において準備ができ、適切な誘導、介助ができる。

*実務者経験：平成18年4月～平成27年2月まで医療法人寿光会 寿光会中央病院にてリハビリテーション科主任として勤務。平成23年度～平成27年度まで30名の実習生を指導。脳血管リハビリテーション、運動器リハビリテーション、腎臓リハビリテーション、訪問リハビリテーションなどに従事する。

【到達目標】

臨床実習Ⅴ・Ⅵ（治療実習）において、求められる治療技術・動作訓練のオリエンテーション、リスク管理を含めて実践ができる。

目標①関節可動域運動を実践することができる

目標②徒手筋力強化を実践することができる

目標③部分荷重練習を実践することができる

目標④起き上がり能力低下に対する介入技能を身につける

目標⑤起立・着座能力低下に対する介入技能を身につける

授業計画・内容			
1回目	関節可動域運動		
2回目	関節可動域運動		
3回目	徒手筋力強化		
4回目	徒手筋力強化		
5回目	促通手技		
6回目	促通手技		
7回目	振り子運動		
8回目	振り子運動		
9回目	部分荷重練習		
10回目	部分荷重練習		
11回目	起き上がり		
12回目	起き上がり		
13回目	呼吸練習		
14回目	起立・着座		
15回目	起立・着座		
16回目	実習前OSCE実技試験		
準備学習 時間外学習	(目標①) 教本でWeb動画が視聴できるようになっています。Web動画がみられるようにスマホやパソコンの環境を整えておきましょう (目標②) 各種、技術を同級生で実施できるように実技練習を行いましょう		
評価 方法	1. 定期試験 (20%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (80%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生へのメッセージ	臨床実習において各種技術が習得できていなければ実習で何もできなくなってしまう。まずは同級生に対して実施できるようにならなければ症例様に実施することはできませんので実技練習を積極的に行いましょう		
【使用教科書・教材・参考書】			
教科書：PT・OTのための臨床技能とOSCE			
機能障害・能力低下への介入編 第2版 監修 才藤 栄一 金原出版株式会社			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	機能障害学特論Ⅰ (Science of functional disordersⅠ)	必修 選択	必修	年次	3年前期	担当教員	石川 琢麻
学科	理学療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
コース	昼間部(Ⅰ部)					曜日・時限	木曜日 3・4限
【授業の学習内容】 疾患学、治療学の基礎となり、国家試験においても重要である解剖学・生理学・運動学について、項目ごとに整理し系統的に学習することで、障害のメカニズムとのつながりを理解する。 【実務経験】 (石川)2011年4月～2016年9月まで医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院にて勤務。 主に急性期の運動器リハビリテーション、脳血管リハビリテーション、内部障害（がんのリハビリテーションを含む）に対するリハビリテーションなどに従事。 2013年より学生および新入職員の指導を実施。							
【到達目標】 基礎的な内容の理解は、疾患や治療において非常に重要となります。 まずは国家試験レベルの問題を解くことができるようになることを目標としましょう。 ①解剖・生理・運動学に関する国試形式の問題を解くことができる。 ②ポイントとなる内容を整理し、疾患学とのつながりを理解することができる。							

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション		
2回目	運動器①：運動器系の解剖について理解する。		
3回目	運動器①－２：運動器系の解剖について理解する。		
4回目	運動器②：運動器系の生理について理解する。		
5回目	運動器②－２：運動器系の生理について理解する。		
6回目	運動器③：運動学について理解する。		
7回目	運動器③－２：運動学について理解する。		
8回目	神経系①：神経系の解剖について理解する。		
9回目	神経系①－２：神経系の解剖について理解する。		
10回目	神経系②：神経系の生理について理解する。		
11回目	神経系②－２：神経系の生理について理解する。		
12回目	内臓①：内臓系の解剖について理解する。		
13回目	内臓①－２：内臓系の解剖について理解する。		
14回目	内臓②：内臓系の生理について理解する。		
15回目	内臓②－２：内臓系の生理について理解する。		
準備学習 時間外学習	各回において学習する内容を、教科書や配布資料を用いて事前に学習しましょう。 授業で行った内容について、確認課題を設けます。課題は必ず復習し、その分野の知識を確実に身につけていきましょう。		
評価方法	1. 定期試験100（％） 2. 小テスト（％） 3. レポート0（％） 4. 課題成果（％） 5. 実地試験0（％）	評価方法はG P A制度となります 1 0 0～9 0 点 S 8 9～8 0 点 A 7 9～7 0 点 B 6 9～6 0 点 C 5 9 点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	本講義では、国試問題の重要な範囲であり、疾患学、治療学へとつながる内容を学習します。 学ぶ内容を整理して、自分なりにまとめることがより深い理解に繋がりますので、能動的な取り組みを期待します。		
【使用教科書・教材・参考書】			
標準解剖学第5版、標準生理学第5版、基礎運動学第6版補訂、基礎固めヒント式トレーニング基礎医学編			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	機能障害学特論Ⅱ (Science of Functional Disorder Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	石川 琢麻
学科	理学療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	通年
コース	昼間部(Ⅰ部)					曜日・時間	火曜日 1・2限

【授業の学習内容】

理学療法の対象疾患には結合組織の損傷による疾患がある。そのためにについての知見を得ることは必要である。本講義では結合組織についての基本的な知識や拘縮、結合組織損傷時の修復過程やリハビリテーションを習得する。

【実務経験】

(石川)2011年4月～2016年9月まで医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院にて勤務。

主に急性期の運動器リハビリテーション、脳血管リハビリテーション、内部障害（がんのリハビリテーションを含む）に対するリハビリテーションなどに従事。

2013年より学生および新入職員の指導を実施。

【到達目標】

運動器の靱帯・腱の構造及び機能について解剖学的・生理学的に理解し、運動器疾患の治療ができるようになることを目指す。

（目標①）結合組織について説明できる

（目標②）靱帯損傷及びその治癒過程について説明できる

（目標③）腱損傷及びその修復過程について説明できる

授業計画・内容

1回目	結合組織について説明できる		
2回目	結合組織と拘縮について：拘縮のメカニズムについて説明できる		
3回目	靱帯損傷（定義と症状）について説明できる		
4回目	靱帯の機能解剖（構造、機能）について説明できる		
5回目	腱損傷（定義、症状）について説明できる		
6回目	腱の機能解剖：構造について説明できる		
7回目	腱の機能解剖：組成について説明できる		
8回目	腱損傷の治癒過程の概略について説明できる		
9回目	腱損傷のリハビリテーションについて説明できる		
10回目	筋萎縮（定義と概念）について説明できる		
11回目	筋萎縮および筋力低下の原因について説明できる		
12回目	上位・下位運動ニューロンの障害の特徴について説明できる		
13回目	神経筋接合部の障害について説明できる		
14回目	骨格筋の障害について説明できる		
15回目	廃用性筋萎縮（定義、特徴）について説明できる		
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学、また、病理学の知識も必要となる科目のため、相当範囲の予習を必要とします。 国家試験出題内容でもあるため、国家試験問題を用いて復習するように。		
評価方法	1. 定期試験（100％） 2. 小テスト（％） 3. 出席（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	運動療法を行う上で、結合組織特に靱帯・腱について解剖学的・生理学的に理解し、靱帯・腱損傷などの発生メカニズムを理解することで運動器疾患の治療につながります。 医学的根拠を持った治療が展開できるよう学んでいきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】基礎固めヒント式トレーニング基礎医学編 基礎固めヒント式トレーニング臨床医学編			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	機能障害学特論Ⅲ (Science of Functional Disorder Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	石川 琢麻
学科	理学療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	通年
コース	昼間部(Ⅰ部)					曜日・時限	水曜日 1・2限

【授業の学習内容】

理学療法の対象疾患には結合組織の損傷による疾患がある。そのための知見を得ることは必要である。本講義では結合組織についての基本的な知識や拘縮、結合組織損傷時の修復過程やリハビリテーションを習得する。

【実務経験】

(石川)2011年4月～2016年9月まで医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院にて勤務。

主に急性期の運動器リハビリテーション、脳血管リハビリテーション、内部障害（がんのリハビリテーションを含む）に対するリハビリテーションなどに従事。

2013年より学生および新入職員の指導を実施。

【到達目標】

神経系の大脳・脳幹・脊髄の構造及び機能について解剖学的・生理学的に理解し、運動失調を有する疾患の治療ができるようになることを目指す。

（目標①）協調運動障害について説明できる

（目標②）各種運動失調について説明できる

（目標③）高次脳機能障害について説明できる

授業計画・内容

1回目	協調運動障害について説明できる
2回目	協調運動の神経機構について説明できる
3回目	小脳性運動失調症について説明できる
4回目	脊髄性運動失調症について説明できる
5回目	前庭性運動失調症について説明できる
6回目	大脳性運動失調症について説明できる
7回目	運動失調の鑑別方法について説明できる
8回目	小脳の構造と機能特性について説明できる
9回目	小脳の運動制御機構について説明できる
10回目	失調症に対する治療について説明できる
11回目	高次脳機能障害について説明できる
12回目	高次脳機能障害の特徴とその評価について説明できる
13回目	失行の症状と評価について説明できる
14回目	半側空間無視の治療について説明できる
15回目	失行の治療について説明できる

準備学習 解剖学・生理学、また、病理学の知識も必要となる科目のため、相当範囲の予習を必要とします。

時間外学習 国家試験出題内容でもあるため、国家試験問題を用いて復習するように。

評価方法	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. 出席（%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
------	---	---

受講生へのメッセージ 運動療法を行う上で、大脳・脳幹・脊髄の機能について解剖学的・生理学的に理解し、高次脳機能障害などの障害像を理解することで中枢疾患の治療につながります。

医学的根拠を持った治療が展開できるよう学んでいきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

基礎固めヒント式トレーニング基礎医学編

基礎固めヒント式トレーニング臨床医学編

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	機能障害学特論Ⅳ (Science of Functional Disorder Ⅳ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	石川 琢麻
学科	理学療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
コース	昼間部(Ⅰ部)					曜日・時限	月曜日 1・2 限
【授業の学習内容】 理学療法の対象疾患には結合組織の損傷による疾患がある。そのための知見を得ることは必要である。本講義では結合組織についての基本的な知識や拘縮、結合組織損傷時の修復過程やリハビリテーションを習得する。 【実務経験】 2011年4月～2016年9月まで医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院にて勤務。 主に急性期の運動器リハビリテーション、脳血管リハビリテーション、内部障害（がんのリハビリテーションを含む）に対するリハビリテーションなどに従事。 2013年より学生および新入職員の指導を実施。							
【到達目標】 中枢神経系の構造及び機能について解剖学的・生理学的に理解し、中枢性神経障害の治療ができるようになることを目指す。 （目標①）中枢性神経障害について説明できる （目標②）中枢性麻痺及びその治療過程について説明できる							

授業計画・内容		
1回目	中枢性神経障害について説明できる	
2回目	運動と感覚の中枢神経系処理機構について説明できる	
3回目	中枢性まひの発生メカニズムについて説明できる	
4回目	大脳基底核障害による中枢性麻痺について説明できる	
5回目	脳幹部障害での中枢性麻痺について説明できる	
6回目	脊髄損傷について説明できる	
7回目	ニューロリハビリテーションの現在について説明できる	
8回目	中枢神経損傷後の再生医療について説明できる	
9回目	筋トーン異常について説明できる	
10回目	筋トーンの制御機構、評価について説明できる	
11回目	痙縮の発生メカニズムについて説明できる	
12回目	固縮の発現メカニズムについて説明できる	
13回目	現在の治療トピックス：薬物療法について説明できる	
14回目	脳神経外科手術、整形外科的手術について説明できる	
15回目	現在のリハビリテーションについて説明できる	
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学、また、病理学の知識も必要となる科目のため、相当範囲の予習を必要とします。 国家試験出題内容でもあるため、国家試験問題を用いて復習するように。	
評価方法	1. 定期試験（100％） 2. 小テスト（％） 3. 出席（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
受講生への メッセージ	運動療法を行う上で、中枢神経系について解剖学的・生理学的に理解し、中枢性麻痺や痙縮・固縮などの発生メカニズムを理解することで中枢性神経障害の治療につながります。 医学的根拠を持った治療が展開できるよう学んでいきましょう。	
【使用教科書・教材・参考】ヒント式トレーニング基礎医学編 ヒント式トレーニング臨床医学編 クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 専門問題		

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	地域理学療法学 (Community Based Physical Therapy)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	阿部 信美
学科	理学療法科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	通年
コース	昼間部(Ⅰ部)			(単位)	2	曜日・時限	木曜日 3 限目・金曜日 3 限目

【授業の学習内容】

介護保険の導入以降、障害を持ちながらも地域で生活することが望まれるようになってはいるが、その生活を支える立場として、リハビリテーション、特に理学療法、作業療法にかかる期待は大きい。 このことをふまえて、地域とは何か、地域理学療法とはなにか、その中で理学療法士の役割とはなにかについて、グループワーク、講義をとおして考え、理解できるようにする。

【実務経験】 1990年4月総合病院勤務後、急性期から維持期生活期までの理学療法士として携わる。

【到達目標】

1) 地域とはなにか、地域理学療法についての概念を説明できる。

2) 介護保険の基本制度について理解し、説明することが出来る。

3) 在宅生活を支える多職種やそのチームアプローチについて理解できる。

4) 予防理学療法の概念を説明できる。

授業計画・内容			
1回目	地域とは何かを考え自分の意見をまとめられる		
2回目	地域理学療法を説明できる		
3回目	医療保険、介護保険制度のしくみを理解できる		
4回目	介護保険の流れを説明できる		
5回目	介護保険の流れを説明できる		
6回目	医療、地域の現場における吸引の必要性が理解できる		
7回目	予防理学療法とは何かを説明できる		
8回目	まとめと確認小テスト		
9回目	維持期のROM障害を理解できる		
10回目	維持期のROM障害のPTを理解できる		
11回目	維持期における疼痛疾患を理解できる		
12回目	維持期の疼痛疾患のPTを理解できる		
13回目	理学療法（医療現場）を理解できる		
14回目	理学療法（回復期、急性期）を理解できる		
15回目	理学療法（介護保険下）を理解できる		
準備学習 時間外学習	国家試験に関係する内容においては特にまとめ、復習をしてください。		
評価方法	1. 定期試験80（％） 2. 小テスト（％） 3. レポート20（％） 4. 課題成果（％） 5. 実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	臨床実習はもちろん、昨今での理学療法士の業界で何が求められているのか、具体的な内容を交えて講義をしていきます。また、近年国家試験問題もこの分野も出題されています。国家試験問題も交え、進めていきますので復習を進めてください。		
【使用教科書・教材・参考書】 標準理学療法学 地域理学療法学 （医学書院）			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名(英)	臨床実習Ⅴ (Clinical PracticeⅤ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	臨床実習指導者
学科	理学療法科	授業	実習	総時間	315	開講区分	前期
コース	昼間部(Ⅰ部)	形態		(単位)	14	曜日・時限	月～金曜日 1～4 限目
【授業の学習内容】 学外実習を行います。 各々学生が配置された病院・施設に向き、臨床勤務している理学療法士の指導にもとづき、病院・施設における理学療法の位置づけや役割を学ぶとともに、病院・施設で理学療法士がリハビリテーションを対象者に提供しているかを見て学ぶ。 技術：「面接」「観察」「検査測定」の実践 「面接」「観察」「検査測定」の技術を身につける。評価結果に基づき、治療プログラムを実施する。							
【到達目標】 病院や施設の理学療法の実際を学び、医療人を志す学生に必要な行動を身につける。また、理学療法評価技術を習得し、実践課程（初期評価～プログラム実施～最終評価）における考え方を深める。							

授業計画・内容			
	臨床実習Ⅱの目標に加えて以下の内容を実施する。 1)評価 1：評価結果から全体像をまとめる。 1-1「心身機能と身体構造」について列挙する。 1-2「活動と参加」について列挙する。 1-3「環境因子と個人因子」について列挙する。 1-4「生活機能と障害」との相互関係をまとめる。 2：将来像を予測する。 2-1 将来の生活に影響する環境因子と個人因子を説明する。 2-2 リハビリテーションゴールを説明する。 3：理学療法の対象となる生活機能と障害について焦点化する。 3-1「肯定的側面と否定的側面」を抽出する。 3-2 抽出した各側面に優先順位をつける。 2)理学療法計画 4：長期目標および短期目標を設定する。 4-1 リハビリテーションゴールに沿った理学療法目標(長期目標・短期目標)を設定する。 4-2 長期目標と短期目標を関連づけて設定する。 4-3 対象者及び家族と目標を共有する。 5：治療・指導・援助を計画する。 5-1 優先順位を設定する。 5-2 リスクを説明する。 5-3 目標に沿って期間を設定する。 5-4 他部門と連絡調整をすることができる。 3)理学療法実施 6：準備する。 6-1 他部門や対象者および家族との連絡調整(時間・場所・人)をする。 6-2 連絡調整した内容に沿って環境を整える。 7：治療・指導・援助について説明し、了承を得る。 7-1 理学療法目標について説明し、了承を得る。 7-2 計画について説明し、了承を得る。 7-3 目的について説明し、了承を得る。 8：計画に沿った治療・指導・援助を実施する。 8-1 時間内に実施する。 8-2 対象者の反応から実施内容の適否を判断する。 8-3 安全性を確保する。 8-4 要点(ポイント)を押さえて実施する。 9：実施中の対象者の状況変化に対応する。 9-1 状況変化に気づく。 9-2 状況変化に応じて実施内容を変更する。		
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・運動学といった基礎科目を基にこれまで習ってきた臨床医学や治療学の知識の復習及び評価や治療手技の復習を行っておくこと		
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (50%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (50%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	臨床実習施設・指導者のもと、実際の理学療法の評価などを経験する。
受講生への メッセージ	実習施設は学校と契約を交わし、愛知県に登録された施設で実施します。		
【使用教科書・教材・参考書】			
なし			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名(英)	臨床実習Ⅵ (Clinical PracticeⅥ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	臨床実習指導者
学科	理学療法科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	315 14	開講区分	前期
コース	昼間部(Ⅰ部)					曜日・時限	月～金曜日 1～4 限目
【授業の学習内容】 学外実習を行います。 各々学生が配置された病院・施設に出向き、臨床勤務している理学療法士の指導のもとで、病院・施設における理学療法の位置づけや役割を学ぶとともに、病院・施設で理学療法士がリハビリテーションを対象者に提供しているかを見て学ぶ。 技術：「面接」「観察」「検査測定」の実践 「面接」「観察」「検査測定」の技術を身につける。評価結果に基づき、治療プログラムを実施する。 また、地域とのかかわりを学ぶため通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションを経験する。 (1単位 45時間)							
【到達目標】 病院や施設の理学療法の実際を学び、医療人を志す学生に必要な行動を身につける。また、理学療法評価技術を習得し、実践課程（初期評価～プログラム実施～最終評価）における考え方を深める。							

授業計画・内容			
	臨床実習Ⅱの目標に加えて以下の内容を実施する。 1)評価 1：評価結果から全体像をまとめる。 1-1 「心身機能と身体構造」について列挙する。 1-2 「活動と参加」について列挙する。 1-3 「環境因子と個人因子」について列挙する。 1-4 「生活機能と障害」との相互関係をまとめる。 2：将来像を予測する。 2-1 将来の生活に影響する環境因子と個人因子を説明する。 2-2 リハビリテーションゴールを説明する。 3：理学療法の対象となる生活機能と障害について焦点化する。 3-1 「肯定的側面と否定的側面」を抽出する。 3-2 抽出した各側面に優先順位をつける。 2) 理学療法計画 4：長期目標および短期目標を設定する。 4-1 リハビリテーションゴールに沿った理学療法目標(長期目標・短期目標)を設定する。 4-2 長期目標と短期目標を関連づけて設定する。 4-3 対象者及び家族と目標を共有する。 5：治療・指導・援助を計画する。 5-1 優先順位を設定する。 5-2 リスクを説明する。 5-3 目標に沿って期間を設定する。 5-4 他部門と連絡調整をすることができ 3) 理学療法実施 6：準備する。 6-1 他部門や対象者および家族との連絡調整(時間・場所・人)をする。 6-2 連絡調整した内容に沿って環境を整える。 7：治療・指導・援助について説明し、了承を得る。 7-1 理学療法目標について説明し、了承を得る。 7-2 計画について説明し、了承を得る。 7-3 目的について説明し、了承を得る。 8：計画に沿った治療・指導・援助を実施する。 8-1 時間内に実施する。 8-2 対象者の反応から実施内容の適否を判断する。 8-3 安全性を確保する。 8-4 要点(ポイント)を押さえて実施する。 9：実施中の対象者の状況変化に対応する。 9-1 状況変化に気づく。 9-2 状況変化に応じて実施内容を変更する。		
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・運動学といった基礎科目を基にこれまで習ってきた臨床医学や治療学の知識の復習及び評価や治療手技の復習を行っておくこと		
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (50%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (50%)	評価方法はG P A 制度となります 1 0 0 ～ 9 0 点 S 8 9 ～ 8 0 点 A 7 9 ～ 7 0 点 B 6 9 ～ 6 0 点 C 5 9 点以下 F 不合格	臨床実習施設・指導者のもと、実際の理学療法の評価などを経験する。
受講生への メッセージ	実習施設は学校と契約を交わし、愛知県に登録された施設で実施します。		
【使用教科書・教材・参考書】			
なし			